

2024年6月11日

パルシステム生産者・消費者協議会

次世代リーダー研修共同実行委員長 岡田 祐樹・飯泉 一茂

## 2024年度第1回次世代リーダー研修報告

- (1) 5/15・16（水・木）、パルシステム連合会東新宿本部にて第8期となる研修生として11産地11名、パルシステムグループ関係者18名の29名、実行委員会13名、事務局等7名の総勢49名の参加により、2024年度第1回次世代リーダー研修を開催しました。
- (2) 1日目は、柳沢恵理実行委員（ポークランドグループ）の司会進行により進められ、小川保代表幹事による開会挨拶では次世代リーダー研修実施経緯、講師紹介がされ、続いて安西政治実行委員（マルタ）、元木大輔実行委員（パルシステム千葉）による研修生へのメッセージとして「この研修は、異なる業種の生産者や職員と出会い、意見を交わすことで、新しい視野を獲得できる場。ぜひ研修で得たことを自組織に持ち帰り、後輩育成にも役立ててほしい」と述べられました。
- (3) 次に、パルシステムの産直と交流をテーマに、パルシステム連合会工藤友明副本部長をお招きし、パルシステムの概要、ジープイエス時代の取り組み、パルシステムの産直と交流について、次世代リーダーへの期待について、ご講演をいただき、「生協は大きくなり環境も変わったが、組合員の産地メーカーへの想い、信頼関係は変わらない。お互いを理解できるパートナーとして継続・維持できる関係性を築き上げましょう」とお話しいただきました。
- (4) 続いて、パルシステムとの産直・交流の歩みとこれからのテーマに、大牧農場の五十川勝美会長をお招きし、戦後開拓の歴史、生協との出会いと交流、産直取引の創成期、生消協および北海道十勝食料自給推進協議会設立と地域に広がる取り組み、農業の現状とこれからのについて、ご講演をいただき、「今後の課題としては、市場原理では農家はやっていけない。ヨーロッパでは種子開発から販売価格設定まで一貫システム形成があり、合理化を進める必要がある」とお話しいただきました。
- (5) その後、2日目に向け「参加産地・生協の課題共有、研修目標・第2回研修候補」を題材に、7つのグループに分かれてディスカッションが行われました。各グループの発表内容は下記の通り。

### 【グループ1】発表者 坂本（パルシステム千葉）

（課題及び研修目標・学びたい内容）

- ・環境保全型や循環型農業、横の連携、地域づくりを学びたい。
- ・産地・生協の若手が辞めない強い組織づくりを学びたい。
- ・熱狂的なファンだけではなく、ライトな層が産地のファンになる仕組みを学びたい。

### 【グループ2】発表者：桜井（パルシステム神奈川）

（課題）

- ・10年後の産直の在り方について。

（研修目標・学びたい内容）

- ・食料生産システムにおける10年後の生産者と生協のより良い関係性について。
- ・組織のスムーズな事業継承について。
- ・広大な農地での圃場管理や農業機材について

### 【グループ 3】

(課題)

- ・ビジョンや理念の共有、外部への開かれた環境と地域を巻き込んだ組織風土。
- ・経営者視点の共有。

(研修目標・学びたい内容)

- ・強い組織・産地づくりを学びたい。世代交代の流れを学びたい。

### 【グループ 4】 発表者：葉山（パルシステム神奈川）

(課題)

- ・産地側での人口減少や後継者育成、生協側での配送人員確保などの人手不足。
- ・限られた人材の中での業務効率化。

(研修目標・学びたい内容)

- ・日頃関わらない方と関わりを持ち、自身の気づきを得て、業務に還元することを目指す。

### 【グループ 5】 発表者 五十川 晴人（大牧農場）

(課題)

- ・人手不足や技術継承による定着と持続性が課題の中で、技術継承の共有方法について。
- ・一歩踏み込んだ交流や長期的な交流の必要性。
- ・給料ではなく、働きたい、やりがいがある仕事の在り方。

(研修目標・学びたい内容)

- ・物流の 2024 年問題や、異常気象による影響と対策、資材高騰による生産への影響と対策について

### 【グループ 6】 発表者：坂井（無茶々園）

(課題)

- ・人材確保と育成定着が課題の中での、働き方改革と農業、働く価値について。

(研修目標・学びたい内容)

- ・機械化や効率化、人材による農業経営方針、三代続く農業経営について。
- ・農家やパルシステムで働けることが魅力ある仕事であることを学びたい。

### 【グループ 7】 発表者：浅井（パルシステム山梨長野）

(課題)

- ・組合員と生産地を含めた組織づくり。
- ・人材確保と育成。
- ・気候変動への対応と利益確保と地域資源の活用。

(研修目標・学びたい内容)

- ・生産者の想いを学び組合員に届け、生産者と地域をつなぐ生協の役割を学びたい。
- ・他業種の視点を通して自身の課題に活かす。
- ・今後の生協があるべき姿を考える。

(6) グループ発表後、意見交換が行われた。交わされた内容は下記の通り。

質問：パルに出荷する価値について、産地側があるとの回答がありましたが、その理由について。

回答：他と比べて出荷量（ロット）が圧倒的に多く助かる。生産者・事務局・配送職員が共に学び密に繋がれる場は他にはない。その関係性を続けていきたいから。

質問：表面的でない1歩踏み込んだ交流について。

回答：組合員が産地に行った際に、収穫など楽しい面だけを見ているのではないかと。現実には苦しい面もあり、その点も含めて交流が必要のため。

質問：10年後の産直の在り方について、今の若者はやりがいと大切との話があった。

若手がどのように定着し、産地をひっぱっていくのか伺いたい。

回答：収穫期は楽しくやりがいはある。大きな農機へのあこがれから農業に入った若手もあり、1年を通じての農作業が収穫に結び付くことを実感することで初めてやりがいに繋がるのでは。

質問：人材育成について、怒る場面があるが今の世代の声を聞きたい。

回答：3年は厳しくすると事前告知があり作業している。怒られないと何が悪いのかわからない。

回答：世の中、ハラスメントに繋がり、怒りづらい空気感があるが、怒る事と注意や教えてもらうことは別。言うべきことを言ってもらわないと自分ができる事が増えず、やりがいも増えない。前後のフォローは必要。コミュニケーションが希薄であるとすべてがやりづらくなる。

回答：指導する立場になり、これだけは絶対にやってはいけない事について、声を大きくして言う事がある。ただ、何についても同じトーンで怒っては言われる側に伝わらない。重要性を教える側も把握し、相手に伝える努力が必要。

質問：強い組織づくりについて、小さな産地の取り組みを強い組織である生協が支えるイメージがあった。これについて伺いたい。

回答：強い組織については組織力が無いと将来につないでいけない危惧があった。強い産地については、事業継承の中で組織のまとまりが崩れ、品質が変わることなく、次の世代に進めていくために強い産地が必要との声があった。

(7) 発表後、意見集約が行われ、テーマについては実行委員会一任となり、第2回研修については大牧農場視察を行うことが確認された。

(8) 最後に、細谷消費者幹事より研修を参加されての感想が述べられ、飯泉共同実行委員長よりまとめがされ全てのプログラムが閉会となりました。

(9) 次回の第2回次世代リーダー研修は8月28日・29日（水・木）大牧農場視察となります。



大牧農場 五十川勝美氏による講義の様子



グループ毎の意見交換の様子



2024年度の第1回次世代リーダー研修には全国から総勢49名が集まりました。

以上